



# EXTRA, EXPERT AND EXTREME EXPRESS

2007 VOL.  
**1**



### 全日本史上初の ノックアウト方式を制したのは亀谷長純! 今年のJSB1000は役者がそろい激戦となりそうだ!!

Photo by H.Wakita(c)



予選2番手 / #81 阿部典史 ワイズギアレーシング



予選3番手 / #4 秋吉耕佑 WINs SUZUKI R.T

## JSB1000

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

●予選日:天候/曇り後雨 路面/ドライ〜ウエット ●決勝コースイン/14:10 スタート/14:25(20周)

いよいよ2007年シーズンが開幕した。長年、世界を舞台に活躍してきた“ノリク”こと阿部典史のフル参戦、ホンダのファクトリーチーム、TEAM HRCの復帰、予選方式の変更、ポイントスタンディングの変更など話題が豊富だ。

しかし、V2チャンピオンの伊藤真一が3月20日にツインリンクもてぎで行われた事前テストでマシントラブルに遭い負傷。残念ながらゼッケン1不在での開幕戦となったが、公式予選は、全日本ロードレース史上初のノックアウト方式で行われ、よりハイレベルで“魅せる”レースへの変貌を目指している。公式予選には、38台が出走。1回目の走行で7台が上位3名の平均タイムの107%をクリアできず予選落ちとなり、ノックアウト方式の予選2回目には、31台が進出した。

史上初のノックアウト方式は、ウエットコンディションとなり、タイヤ本数制限が解除されて行われたが、タイヤの使い方というファクターが順位を左右した。15分のセッションを3回行い、徐々に振り落とされていくシステムの中、第1セッションでは、昨年ランキング6位となった出口修がコースアウトして、まさかの脱落。25番手グリッドからスタートする結果となってしまった。

21台が進出した第2セッションは、最終パートとなる第3セッションへ残るための、

(中面へ続く)

### TIME TABLE

※タイムテーブルは、変更されることがあります。

10:25 -	GP125 スタート進行(コースイン〜選手紹介)
10:40 -	GP125 決勝レース.....16Laps
11:30 -	ST600 スタート進行(コースイン〜選手紹介)
11:45 -	ST600 決勝レース.....16Laps
12:40 - 13:25	ピットウォーク
13:35 - 13:55	タンデムイベント
14:10 -	JSB1000 スタート進行(コースイン〜選手紹介)
14:25 -	JSB1000 決勝レース.....20Laps
15:20 -	GP250 スタート進行(コースイン〜選手紹介)
15:35 -	GP250 決勝レース.....16Laps
16:25 -	GP-MONO スタート進行(コースイン〜選手紹介)
16:40 -	GP-MONO 決勝レース.....8Laps



## MFJ SUPERBIKE

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

### 楽しみ方いろいろ。MFJ SUPERBIKEの情報満載

2007年もGAORA (CS放送) で全戦放映!! 地上波ローカルTV局ではダイジェストを放映!  
レース速報はMFJオンラインマガジン [mfj.or.jp](http://mfj.or.jp)  
情報満載のファンサイト [superbike.jp](http://superbike.jp) へ!!

# JSB1000 CLASS STARTING GRID

1	1 2'01.478 10 亀谷 長純 CBR1000RR	2	2 2'02.225 81 阿部 典史 YZF-R1	3	3 2'02.349 4 秋吉 耕佑 GSX-R1000K7
2	4 2'02.772 83 森脇 尚護 CBR1000RR	5	5 2'03.004 87 柳川 明 ZX-10R	6	6 2'03.092 76 渡辺 篤 GSX-R1000
3	7 2'03.270 48 手島 雄介 CBR1000RR	8	8 2'03.314 3 山口 辰也 CBR1000RR	9	9 2'04.118 39 酒井 大作 GSX-R1000
4	10 2'04.994 54 徳留 和樹 CBR1000RR	11	11 2'05.501 9 中須賀克行 YZF-R1	12	12 2'06.449 73 安田 毅史 CBR1000RR
5	13 2'06.627 75 大崎 誠之 YZF-R1	14	14 2'08.165 53 今野 由寛 GSX-R1000K7	15	15 2'08.491 71 津田 一磨 CBR1000RR
6	16 2'08.807 32 高田 速人 CBR1000RR	17	17 2'09.210 33 松井 秀樹 CBR1000RR	18	18 2'09.373 11 須貝 義行 CBR1000RR
7	19 2'11.690 85 古川 力也 CBR1000RR	20	20 2'12.862 7 辻村 猛 CBR1000RR	21	21 山中 正之 CBR1000RR
8	22 2'12.161 21 野寄 真二 CBR1000RR	23	23 2'13.377 23 本田 晃司 GSX-R1000K7	24	24 2'14.320 24 刈田 庄平 ZX-10R
9	25 2'15.313 6 出口 修 CBR1000RR	26	26 2'15.832 16 川瀬 裕昌 GSX-R1000K7	27	27 2'16.094 30 波多野 祐樹 GSX-R1000K7
10	28 2'16.662 37 原田 伸也 CBR1000RR	29	29 2'21.083 35 小林 敦之 CBR1000RR	30	30 2'32.724 704 中村 知雅 CBR1000RR
11	31 70 吉井 秀美 GSX-R1000				

九つのイスを目指す戦いとなり、ここでも、セッション終了間際に逆転劇があり、徳留和樹が10番手となり涙を飲んだ。テストから好調な中須賀克行もコースアウトを喫し、11番手と悔しい結果となってしまった。

第3セッションは、タイヤをうまく温存した亀谷長純が、ただ一人、2分1秒台に突入しJSB1000初ポールポジションを獲得した。「パートごとの時間が短かったし、昨日の午前中にレインタイヤの感触がよかったので自信があった。周回数を抑えてタイヤを温存したのがよかったと思う」と長純。JSB1000クラス3年目となり、チーム、そしてタイヤの特性もうまくつかめてきている。決勝では、最高の結果を目指すす力強く語った。

2番手には、ノリックがつけた。13年ぶりの全日本参戦だが、チームをまとめ上げ、自らのスタイルで着実にマシンをセットアップしてきた。難しいコンディションだったが、さすがの走りを見せていた。

秋吉耕佑は、第3セッションの最後にリアタイヤのみ更新してピットアウト。チェッカーフラッグが振られる3秒前に通過し、ギリギリのタイミングでアタックしたタイムで3番手グリッドにすべり込んだ。

決勝は、ドライコンディションとなる可能性が高く、木、金とトップタイムをマークした山口辰也と好調な森脇尚護、コンスタントに51秒台をマークしていた中須賀などがレース序盤をリードしそうだ。フロントロウの3台、渡辺篤、柳川明など、誰が勝ってもおかしくない激戦が繰り広げられそうだ。



**POLE POSITION** 亀谷 長純 2'01.478

「今回の予選方式は初めてなので、いろいろ考えながら走っていました。タイヤ本数に制限があるので、午前の予選は5周でやめました。タイヤ温存を考え、(ノックアウトの)第1セッション、第2セッションまで早めにタイムを出し、9番手までにさえ入れれば最後のセッションで攻められると思ったからです。チェッカーを受けるまで、トップタイムが僕だとは知りませんでした。」

桜井ホンダというチームもミシュランも今年で3年目。乗ってきたという実感はあります。決勝は雨でも晴れでも、どちらでもいいですね。記者会見を受けたのも3年ぶりだけど、決勝後も受けられるように頑張ります」

## NG MOTEGI ツイン



金曜日に行われた、開幕戦恒例の各クラス集合写真の撮影

# ダークホース東浦正周がポールをGET!

ST600クラスは、V2チャンピオンの安田毅氏がJSB1000クラスにステップアップ。昨年の上位ランカーが一気に抜けてしまったが、2003年のチャンピオン小西良輝がカムバック、酒井の抜けたチームグリーンに高橋英倫が移籍、2001年に初代ST600チャンピオンとなった武田雄一の復帰、高橋江紀がGP250からスイッチ、TSRに岩田悟が加入するなど、変化があった。

事前テストから好調ぶりを見せていたのがST600、2年目となる佐藤裕臣。鋭いブレーキングを見せており、公式予選でも上位に食い込んでくるのが予想されていた。しかし、1回目に最終コーナーで転倒。右肩を痛めてしまう。2回目に挽回を狙ったが、雨が降ってしまい万事休す。予選は9番手と不本意な結果になってしまったが、決勝では、トップ争いを繰り広げそうだ。

この天候をうまく読み、ドライコンディションだった1回目に、2セットのタイヤを使った東浦正周が自己ベストを更新する1分56秒962を出し、トップにつけ見事、初ポールポジションを獲得した。2番手に寺本幸司、3番手に復帰戦となる武田がつけた。

2列目には小西、奥野正雄、高橋江紀が並ぶ結果となった。野田弘樹、高橋英倫も調子は悪くなく、トップ争いに加わってきそうだ。

予選は波乱の展開となったが、決勝も波乱が待っているかもしれない。開幕戦を制するのは果たして?!



**POLE POSITION 東浦 正周 1'56.962**

『事前テストから調子が良く、去年より1秒くらい速いタイムが出ていました。サスペンションを代えてから、走るたびにタイムが上がっています。今日は午後から雨という予報だったので、午後用のタイヤを午前に使ってアタックしました。天候にも恵まれましたね。2回目の予選が晴れていたら(P.P.獲得は)危なかったかも。新しくなったフロントタイヤはヤマハのマシンとのマッチングが良く、ストレートもヤマハは速いですね。決勝は逃げ切れればいけど、実際は混戦になると思う。表彰台に乗れるように頑張ります!』

## ST600

## 公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	25	東浦 正周	1'56.962	プラスミュージーシングチーム
2	5	寺本 幸司	1'57.614	Moto Map VEGA
3	88	武田 雄一	1'57.679	Team 桜井ゼンガ
4	73	小西 良輝	1'57.688	team HARC-PRO.
5	6	奥野 正雄	1'57.860	伊藤RACING-GMDスカタム
6	55	高橋 江紀	1'58.056	DyDo MIIU Racing
7	12	野田 弘樹	1'58.072	レーシングチーム ハニービー
8	705	黒川 武彦	1'58.125	GARAGESPEED中村Eg
9	10	佐藤 裕臣	1'58.164	ジュビロレーシングチーム
10	16	大石 正彦	1'58.172	伊藤RACING-GMDスカタム
11	8	高橋 英倫	1'58.257	TEAM GREEN
12	45	和泉美智夫	1'58.383	ホンダチーム北九州RT
13	72	宮崎 教	1'58.474	DOG FIGHT RACING
14	15	稲垣 誠	1'58.510	バーニングプロットRT
15	43	生形 秀之	1'58.544	エスバルスドライバーレーシング
16	58	大木 崇行	1'58.596	Club HARC-PRO.
17	20	岩田 悟	1'58.632	F.C.C.TSR
18	17	新理 敏之	1'58.827	Team ARA 虎の穴
19	51	泉本 真宏	1'58.852	RT 藤くまさん 佐藤豊仙台
20	64	井上 哲悟	1'59.077	TrickStarスターン-R
21	11	森 新	1'59.177	team HARC-PRO.
22	44	児玉 勇太	1'59.245	IDB YS Racing
23	37	行方 知基	1'59.453	ヨシムラスキwithJOMO
24	27	中山真太郎	1'59.523	Kohara RC
25	89	須藤 真仁	1'59.617	ホンダチーム北九州RT
26	76	清水 康樹	1'59.624	RS-ITOH&KAZE
27	23	沼田 憲保	1'59.669	HITMAN RC甲子園ヤマハ
28	56	原田 真史	1'59.768	CLUB HARC-PRO.
29	34	川原 英夫	1'59.791	TEAM PLUS ONE
30	29	津田 拓也	1'59.839	チームOSG&モトスポーツ
31	62	中津原尚宏	1'59.841	研友会橋本Pnレーシング
32	85	中島 大輔	1'59.916	MAX-SPEED
33	28	清水 郁巳	2'00.044	DREAM高崎B'WISE RT
34	69	小林 龍太	2'00.257	バーニングプロットRT
35	65	小菅 岳大	2'00.274	CLUB HARC-PRO.
36	99	高杉奈緒子	2'00.464	レーシングチーム ハニービー
37	33	下地 伸悟	2'00.544	アンビジャス Panasonic LUMIX
38	60	古畑 博志	2'01.007	R.T.ハニービー-松田豊
39	57	横濱 好弘	2'01.026	SBS替田
40	63	岸本 吉広	2'01.472	横浜F・マリノス&オザワR&松田豊
以上予選通過車両:				
41	83	小野 照央	2'01.612	SBS会津ライトオン
42	77	小田 茂昇	2'01.869	ホンダショップナゴ/R-T
43	59	赤羽 真一	2'03.026	
44	38	安海 薫	2'03.097	DOG FIGHT RACING
45	91	鈴木 大二郎	2'03.870	ケンツトラスターン-R
19	鶴田 日出	出走せず		TrickStarスターン-R
61	小島 康孝	出走せず		MC Racing

参加台数:47台 出走台数:45台  
公式予選1回目 予選通過基準タイム(110%) 2'08.658  
公式予選2回目 予選通過基準タイム(110%) 2'25.476

# 岩田裕臣が全日本初P.P.! 新鮮な顔ぶれがベテラン勢を脅かす!?

8時35分、公式予選はGP125から始まった。気温が低いので各車タイムは思うように伸びず、1回目のトップタイムはAグループの岩田裕臣がマークした2分02秒582。2番手はBグループのトップ、井手敏男。2分02秒台をマークしたのはこの2台だけだった。

予選2回目はAグループ走行中から雨がぱらつき始め、タイムアップは難しい状況となった。菊池寛幸、浪平伊織は1回目の予選タイムを更新したが03秒台にとどまった。Bグループ走行時には徐々に雨足が強くなり、タイムを更新するライダーはいなかった。午後からの天候の変化によりグリッドは各グループの頭取りで決定され、岩田が全日本初のポールポジションを獲得した。

『天気予報では午後から雨だと聞いていたので、1本目から柔らかいタイヤを使ってアタックしました。集団にひっかかるなどの失敗もあったし、他のライダーがもっとタイムを出してくると思っていたので、このタイムでポールポジションが取れたことに驚きました。でも初めてのポールなので、やっぱり嬉しいですね!』

岩田は金曜日の合同走行でもトップタイムをマークしており、好調な流れを決勝にも持ち込みたいところ。ベテラン勢との戦いになると予想している岩田だが、最後まで食らいついて、最後にはトップでチェッカーを受けるつもりだ。

また、今シーズンから新チーム『TEAM ASPIRATION』を立ち上げた古市右京が自己ベストグリッドの4番手を獲得。同チームへ移籍した仲城英幸は6番手につけ、共にセカンドロウからのスタートとなった。

「チーム代表として仲城さんと一緒にやるのはかな

りプレッシャーがあります。仲城さんにはずかしい思いはさせられませんから。でも、ライダーとしては負けるのがこ悪い。決勝はどんどん攻めて行こうと思っています」と古市。

岩田、井手、菊池がフロントロウ、2列目には古市、浪平、仲城が並ぶ。富沢祥也はGP250とのダブルエントリーにとまどいがあったのか、実力を発揮できず15番手に沈んでいるが、決勝ではトップ争いに絡んでくるはずだ。ベテランと若手が入り乱れた、見応えのあるレース展開となるだろう。



**POLE POSITION 岩田 裕臣 2'02.582**

『本当は2回目の予選でタイムを上げたかったけど、雨が降ってきて、ピットから戻れという指示に従いました。もてぎは一昨年、昨年とGPに出場していて、その経験もあって速くなってきたんだと思う。今年も事前テストから、GPのタイムを意識して走っていました。予選では気温も低くて、目標タイムを出せなかったのがやしいです。決勝では逃げ切れるとは思っていませんが、なんとか頑張って最後に前にゴールできたいと思います!』

## GP125

## 公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	6	岩田 裕臣	2'02.582	TEAM PLUS ONE
2	5	井手 敏男	2'02.973	Feel&TEC.2
3	4	菊池 寛幸	2'03.319	BATTLE&ミハラレーシング
4	25	古市 右京	2'03.225	TEAM ASPIRATION
5	15	浪平 伊織	2'03.354	Honda鈴鹿レーシングチーム
6	10	仲城 英幸	2'03.257	TEAM ASPIRATION
7	72	岩田 悟	2'03.509	チーム KOHSAKA
8	55	渡辺 幸一	2'03.374	DyDo MIIU RACING
9	13	山田 亮太	2'03.726	TEAM PLUS ONE
10	3	竹内 吉弘	2'04.236	RP 嵐井&YUE&Promathic-I
11	14	山本 武宏	2'03.993	チーム MARINEコスモス+G
12	8	東 幸寛	2'04.468	RISKY+ホワイトレレーシング
13	11	徳留 英紀	2'04.054	TEC.2&Feel
14	77	今中 満	2'05.057	RISKY+ホワイトレレーシング
15	48	富沢 祥也	2'04.203	TeamProjectuFRS
16	79	清水 達夫	2'05.074	CLUB FRS
17	61	柳沢 祐一	2'04.352	18 GARAGE RACING TEAM
18	65	船田 英生	2'05.132	チーム ウイリー
19	24	水野那由太	2'04.579	TEC.2&Feel
20	16	菅谷 慎一	2'05.293	TEAM PLUS ONE
21	31	小磯 崇	2'04.832	モータルファ&大洗サーキット
22	19	大石 義次	2'05.413	TEC.2&Feel
23	27	天野 邦博	2'04.933	ホンダ狭山レーシングチーム
24	82	山内 隆史	2'05.631	レイノボーキ&YUE
25	68	篠崎 佐助	2'05.377	ENDURANCE&橋川豊
26	75	松村 徳人	2'05.978	KTR&ENDURANCE
27	71	矢作 雄馬	2'05.382	橋川豊&ENDURANCE
28	53	人見 研吾	2'06.047	YUEレーシング
29	76	尾野 弘樹	2'05.683	BATTLE&ミハラレーシング
30	59	石川 学海	2'06.109	Team.I-FACTORY.
31	57	池ノ谷 駿	2'05.779	☆KTRスポーツクラブ☆
32	70	福島 宏幸	2'06.315	RISKY+ホワイトレレーシング
33	74	鎌田 悟	2'05.896	KTR&ENDURANCE+OSL
34	63	龍島 欣雄	2'06.866	MUSASHI RACING
35	21	長谷川 悠	2'06.118	RISKY+ホワイトレレーシング
36	7	井上 誠介	2'07.335	BATTLE&ミハラレーシング
37	33	橋本 弘道	2'06.510	racing sayama
38	32	橋本 弘道	2'07.476	NISSIN 二輪部
39	18	尾野 那司	2'06.659	SMFレーシング MKN
40	41	沖藤 陽一	2'07.514	オートテックニクススポーツ48会
以上予選通過車両:				
41	52	増田 雄亮	2'06.668	Honda鈴鹿レーシングチーム
42	73	山本 剛大	2'07.529	CLUB HARC-PRO.
43	78	村田 大樹	2'07.035	CLUB FRS
44	30	福田 賢太	2'07.850	ホンダ・ブルーヘルメット MSC
45	64	萩原 洋	2'08.237	チーム KOHSAKA
46	97	中野 要	2'09.217	サークルBig救-FTR-Tナビ
47	84	橋本 齊志	2'08.383	CLUB Y'S
48	50	尾野 那司	2'09.706	BATTLE&ミハラレーシング
49	49	川瀬啓一郎	2'09.484	チーム KOHSAKA

参加台数:49台 出走台数:49台  
公式予選1回目 予選通過基準タイム(110%) [A Gr]2'14.840 [B Gr]2'15.270  
公式予選2回目 予選通過基準タイム(110%) [A Gr]2'15.651 [B Gr]2'16.034

# 高橋巧が自己ベストで初ポールポジションを獲得!

事前テストから好調が伝えられていたのは、昨年、ランキング3位となった宇井陽一。チャンピオンの横江竜司がJSB1000クラスに、ランキング2位となったラタパー・ヴィライローが世界に旅立ち、宇井がランク最上位になったことから当然の結果とも言えた。しかし、レースウィークに入ってからトラブルが続き、その解決に時間を費やしたため、宇井は、思ったような走りができなかった。公式予選でやっとトラブルを克服したものの、納得いく走りはできなかったと語る。それでも1分55秒835をマークし、2番手グリッドにつけた。「ポールを取れなかったのはくやしい。決勝は、巧と祥也といいバトルをしたいね。オレのハートに火がつくような走りをしてほしいね」と宇井。そんな宇井のハートに火をつけそうなのが、ポールポジションを獲得した高橋巧だ。風邪で体調を崩し、金曜は39度の熱を出していた。予選までに熱は下がったものの、咳は止まらなかった。それでも全力のアタックを見せ、自己ベストを大きく更新する1分54秒797をたたき出した。「(風邪は)走りに影響はなかった。スタートを失敗しないようにして勝ちを狙っていきたい。今年の目標は全戦全勝です」と巧。

3番手にはGP125とダブルエントリーしている富沢祥也がつけた。「タイムは単独で出せたので自信ができてきた。決勝は、宇井さん、高橋さんについていきたい」と祥也。4番手の及川誠人は、アタック中に4コーナーで転倒。右足を痛めてしまったが、決勝は奮起したい。濱本裕基、山崎都という若手も徐々に力をつけており、トップグループに食らいついていきたいところだ。



## POLE POSITION 高橋 巧 1'54.797

「これまでのベストタイムが(1分)56秒台だったので、54秒台を目標にしていました。自分としては相当攻めて単独で出したタイムで、それが実現できて嬉しいです。今までブレーキを思い切っけられなかったが、そこを改善したらよくなりました。昨日は熱が39度ちょっとあったけど、今日はだいぶ下がりました。決勝は体調を整えて臨みたいと思います。レースは逃げるのは難しいと思うので、競り合いの中で勝って優勝したいですね。今年の目標はチャンピオン。全戦全勝を狙って頑張ります!!」

## GP250 公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	4	高橋 巧	1'54.797	バーニングブラッドRT
2	41	宇井 陽一	1'55.835	PRO-TEC&Spruce
3	48	富沢 祥也	1'56.106	TeamProjectuFRS
4	5	及川 誠人	1'56.636	ウィルアクセス&プラスミー
5	7	濱本 裕基	1'57.758	TEC2&Feel.九州共立大学
6	56	山崎 都	1'57.777	HITMAN RC甲子園ヤマハ
7	8	秋田 貴志	1'58.087	Henkel TDR YAMAHA
8	93	遠藤 卓実	1'58.466	PRO-TEC&新潟工業短大
9	19	伊藤 勇樹	1'58.799	DOG FIGHT RACING
10	6	秋谷 守	1'59.401	チーム モトスペース
11	16	櫻井 大幸	2'00.639	KEIHIN KoharaR.T.
12	34	小口 理	2'01.240	ALLMAN&OW小口歯科
13	26	柴原 誠	2'01.297	TeamDankeRacing
14	65	二瓶 彰	2'01.433	SP-V&寿レーシング
15	62	中本 都	2'01.492	RT-OUTRUN
16	31	渡辺 一樹	2'01.528	TeamDankeRacing
17	45	Doni Tata Pradita	2'01.677	ヤマハ インドネシアRT
18	25	福山 京太	2'01.747	TeamDankeRacing
19	47	小口 亘	2'03.019	ALLMAN&OWRACING
20	14	及川 玲	2'03.089	ペンタグラム&株嶺岡&M-Ra
21	72	木村 旭厚	2'03.181	PRO-TEC工大工学部機械研
22	28	大城 光	2'03.855	Oshiro R・金田工業株
23	36	飯塚 弘樹	2'05.368	ガレー国政&飯塚自動車商会
24	27	斉藤 一輝	2'05.970	パワーバイMRP
以上予選通過車両:				
25	15	豊田 浩史	2'22.773	D:REX
73	鈴木 正彦	出走せず		INTEGRAL Racing
92	園川 浩道	出走せず		SP忠男レーシングチーム

参加台数:27台 出走台数:25台  
予選通過基準タイム(110%) 2'06.277

# 大本命、小室旭がGP-MONOデビュー!

2年目のシーズンを迎える全日本GP-MONOクラス。コンストラクターからのコンプリートマシンもリリースされ、レベルの向上は必至となってくる。

公式予選は、ウェットコンディションとなり、20分のセッションで争われた。GP125のトップライダーとして活躍していた小室旭がフルエントリー、そのデビュー戦となり注目を集めていた。その小室が、2周目に2分20秒004をマークし、リーダーボードのトップに立つ。さらにタイムアタックを続けるが、最終コーナーでコースアウトを喫しピットイン。サスペンションをアジャストして出て行くが、タイムは更新できなかった。しかし、小室のタイムを破る者はあられず、GP-MONOデビュー戦をポールポジションからスタートすることになった。

「GP-MONOで雨を走るのも初めてだったので、車体のセッティングが今一つだった。コースアウトしなければ、もっとタイムが出ていた。決勝は、コースレコードを更新して、ぶっちぎりで勝ちたい」と小室。GP-MONOクラスのレベルを上げ、目標にしていきたいと熱く語った。

2番手グリッドには、国内ライセンスの古川真一が入り、モリワキの乃村康友が最後のアタックで3番手にすべり込んだ。以下、星野知也、小原覚、岡田義治と続いた。

昨年のチャンピオン山下祐は、9番手からスタート。レースでは、小室に何とかついていきたいところ。小室のラップタイムに注目だ。



## POLE POSITION 小室 旭 2'20.004

「GP-MONOは今年初めてなので探りながら走っていました。このタイムでポールポジションを取れたのはラッキーです。今までこのクラスを客観的に見ていて、草レース的なイメージがありましたが、自分が参戦するにあたっては、FRSからの出場ということで、内容の濃いレースができると思ったんです。自分が今までレースしてきた中で知らなかった部分を、GP-MONOで学びたいと思っています。このクラスの奥の深さを知ってもらうためにも、僕が全サーキットのコースレコードを塗りかえて、GP-MONO全体のレベルを上げていきたいですね!」

## GP-MONO 公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	56	小室 旭	2'20.004	TeamProjectuFRS
2	5	古川 真一	2'20.323	チームライディングスポーツ
3	83	乃村 康友	2'20.327	モリワキクラブ
4	46	星野 知也	2'20.450	エスバルストリームRT or レンジャー
5	14	小原 覚	2'20.867	チームフレッド&Pバドック.com
6	3	岡田 義治	2'20.960	RH松島
7	2	森 隆嘉	2'21.028	TEAM PLUS ONE
8	4	赤岡 清	2'21.159	CLUB HARC-PRO.
9	1	山下 祐	2'21.395	ZBユビクツR・PLUSONE
10	7	藤崎 直之	2'21.513	チームサガヤ・PILOTA
11	42	中木 亮輔	2'21.791	MIRACLE POWER R
12	10	平石 理	2'22.266	レーシングチーム ハニービー
13	68	中村 公彦	2'22.979	IS-P.CC/プリミティブR
14	12	繁野 明治	2'23.036	ホットバンクUSA&GET HOT
15	9	阿部 徹郎	2'23.686	あべスピ・ヤマハ&セルコホーム
16	55	比企 徹	2'23.688	DyDo MIU Jr.
17	16	榊原 徹	2'23.951	ZIPBIKE豊橋ユビクツR
18	33	小林 弘之	2'24.387	ファイヤーガレージ&ライティンスポーツ
19	34	山口 慶高	2'24.451	Team MIKUNI GPmono
20	15	永田 正己	2'24.643	TW'sRAVE-ON+ZB
21	30	三好 菜摘	2'26.954	パワーバイレーシング
22	29	斉藤 幸大	2'27.255	パワーバイMRP
23	26	高橋 哲也	2'27.327	ウイニングラン
24	88	植田 智広	2'27.893	Team Life
25	31	小川 範祥	2'28.458	広島カジタレーシング
26	19	法月多壽夫	2'28.645	M・A・R・S
27	35	清田 貴史	2'29.169	ユビクツタR・PlusOne
28	27	重野 浩	2'29.467	JBS☆ミック☆サブトラフR
29	23	小山 隆治	2'30.342	18 GARAGE RACING TEAM
30	20	江崎屋 学	2'30.417	IS-P.CC/プリミティブR
31	36	中野 佳則	2'30.997	アケインレーシングクラブ!
32	40	吉島 正治	2'31.837	RH松島
33	32	伊東 忠孝	2'32.620	racing ライトスポーツ
34	37	福岡 大吾	2'33.207	M・A・R・S
以上予選通過車両:				
35	39	手塚 隆	2'35.950	ウルフマンシヨハルテレMCR
36	52	小畑 仁	計測できず	MOTO WIN RACING
28	馬場 隆	出走せず		パワーバイレーシング
38	安川 澄江	出走せず		MHマツモト&ビルドワークス

参加台数:38台 出走台数:36台  
予選通過基準タイム(110%) 2'34.240